

高浜再稼働

関係者へ聞く

原発反対県民会議の代表委員として県内の反原発活動をけん引する中嶋哲演氏は、東京電力福島第1原発事故を教訓とした安全対策を「新安全神話をつくったに過ぎない」と糾弾する。今後の反対活動については「電力消費地で活動が盛り上がる」といけぬ」と呼び掛ける。

(聞き手・坂下享)
—関西電力高浜原発3号機が再稼働する。

「福島事故が起こった後の再稼働は考えもしなかったし、考えたくもなかった。これまで若狭地方と同じような境遇だった福島県が、県を挙げて原発依存からの脱却を決め、国からの支援も受けている。福井は福島を教訓に、脱原発の決断を

中嶋哲演氏 代表委員 原発反対県民会議



「電力消費地で活動を盛り上げるべき」と話す中嶋氏—小浜市

消費地から「NO」を

3

しなければならぬ。脱原発に向かい、国にアフターケアを求めるよう、県は政

策を転換すべきだ」
—国は新規制基準を定め、事故を教訓に一層の安全対策がなされているとす

る中、素人の素朴な「本当国集会を開いたのは関西の団体、27日に大阪市で関西本店を包囲する活動と呼び掛けたのは福井の団体だった。(県外の人たちが)再稼働の現場で氣勢を上げてくれるのはありがたいが、肝心の消費地での理解浸透から逃げていとも言える」

「再稼働ありきという原論があつて、新規制基準と論がある。本質を見つめ直す必要

「都市が迷惑施設を田舎に押しつけ、膨大な電気と富を享受し、迷惑料を支払うという構図がある限り、何も変わらない。都会の人たちが立ち上がって、関西に『若狭の人たちを犠牲にしてまで電気はいらない』という声で運動を盛り上げ、迫らないと原発は止まらない。一方、福井は福井で、地元から『の』声を大きく上げることで、全国の人たちを励ます必要がある」

「再稼働ありきという原論があつて、新規制基準と論がある。本質を見つめ直す必要

「都市が迷惑施設を田舎に押しつけ、膨大な電気と富を享受し、迷惑料を支払うという構図がある限り、何も変わらない。都会の人たちが立ち上がって、関西に『若狭の人たちを犠牲にしてまで電気はいらない』という声で運動を盛り上げ、迫らないと原発は止まらない。一方、福井は福井で、地元から『の』声を大きく上げることで、全国の人たちを励ます必要がある」